

厚生科学研究費補助金（生活安全総合研究事業）

分担研究報告書

人の健康影響に関する検査法等に関する調査研究（実験系の開発とデータベース）

分担研究者 菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所・毒性部

研究要旨：

内分泌かく乱物質問題には、対象化学物質の数が膨大であるという点と、核内受容体を介する遺伝子転写活性制御の基礎生物額であり、その影響のエンドポイントの問題である等の広い分野の知識を結集した上で、対処しなければならないという問題点がある。そのため、内分泌かく乱化学物質の影響に関する試験法の開発に関する研究結果を広く一般に報告するために関連の「内分泌かく乱化学物質試験法提要（仮称）」の編集を計画したものである。

A. 研究目的

内分泌かく乱物質問題には、その生体影響の有無を判定すべき対象化学物質の数が膨大であるという問題点の他に、核内受容体を介する遺伝子転写活性制御の基礎生物学的問題から、その影響がヒトや動物の生殖・後世代影響に如何に現れるかを検討するエンドポイントの問題まで、広い分野の知識を結集した上で、対象物質あるいは物質群に対処しなければならないという問題点がある。

本研究班の目的は、広い科学的知識を基礎にした内分泌かく乱化学物質の影響に関する試験法の開発である。この研究結果を広く研究者のみならず一般に報告するために、関連の研究成果を結集した、「内分泌かく乱化学物質試験法提要（仮称）」の編集を計画した。

B. 研究方法

内分泌かく乱化学物質の影響に関する試験法の開発について、この研究結果を広く研究者のみならず一般に報告するために、今井班班員等の研究成果を結集した、「内分泌かく乱化学物質試験法提要（仮称）」の編集を遂

行中である。

C. 研究結果

今年度は、班員を主体とする著者からの原稿の取りまとめと校正を行い、下記のごとき最終目次のもと、次年度内出版に向けての最終段階へ入った。（別紙参照）

F. 研究発表

1. 論文発表

菅野 純、内分泌かく乱化学物質の生物影響、ファルマシア、35、219-223、1999

菅野 純、内分泌攪乱化学物質について-生物学的立場から-有機合成化学協会誌、57、35-39、1999

Kanno J, Ward JM, Maronpot RR, Mechanisms of chemically induced thyroid follicular carcinogenesis, in Prog Clin Biol Res, 394, Cellular and Molecular Mechanisms of hormonal carcinogenesis /Environmental Influences, (editors:

James Huff, Jeff Boyd, J Carl Barrett),
Wiley-Liss, Inc. press, 353-398, 1996